

凍結精子で14人誕生

無精子症の男性から採取して凍結保存した微量の精子を使って、顕微授精することで14人の赤ちゃんが生まれたと、北九州市のセントマザー産婦人科医院（田中温院長）が23日までに欧州産科婦人科学誌で発表した。

無精子症の男性は、精巣の中にわずかな精子が見つかることがあるが、不妊治療に使うには精巣を切開し

無精子症の男性

て取り出す必要がある。患者の精子は凍結保存がほとんど成功しないため、顕微授精を行うたびに切開を行わなければならず、体の負担が大きいのが問題点となっていた。

採取した精子は保護液と混ぜた後、液体窒素で冷凍保存する。田中院長らは、凍結の際に保護液として使われる「グリセロール」という成分が、融解後の精子

治療の負担軽減に期待

の回復に悪影響を与えていると考え、この成分を除いて患者の精子を凍結してみた。

この結果、患者28人から取り出した精子の約9割が解凍後も生存していた。解凍した精子を卵子に注入する顕微授精で受精卵にした後、子宮に戻すと2011年9月～18年12月に11組のカップルから14人の赤ちゃんが生まれた。7年間の追跡調査を行っており、いずれも順調に育っているという。